

第7次津別町社会教育中期計画 2020-2024



「もちつき大会」
アソビバ!つべつ・高校生ボランティアサークルひまわり・青年活動プロジェクト and
3団体コラボ事業

津別町教育委員会

はじめに

平成27年度から5か年にわたり推進してきた「第6次津別町社会教育中期計画」が令和元年度に最終年を迎え、基本目標を「学び合い・つながり合い・活気あるまちづくりをめざす社会教育の推進とし、毎年「評価と見直し」を行いながら、町民の主体的な学習活動のための環境整備と学習機会の提供に取り組んでまいりました。

令和2年度は、本町におけるまちづくりの最上位計画である「第6次津別町総合計画」がスタートします。こうした諸計画と整合性を図りながら、実効性のある計画を策定するため、令和元年5月に諮問し、12月答申をいただきました。

第7次社会教育中期計画では、基本目標を「世代を越えてつながり、ともに学び合う社会教育の推進」として、5つの推進目標を掲げています。子どもの成長には読書推進活動が大きな役割を果たすことから、読書活動の推進についても計画に盛り込みました。

施策の推進に当たっては、町民一人ひとりが、さまざまな課題解決、自己実現のための学習機会の提供をはじめ、学習環境の整備について世代を越えてつながり、より多くの人と人がつながることの楽しさを感じ取っていただくことのほか、その成果を社会参画や社会貢献活動につなげて行くことができる学習基盤の整備など、町民の興味、関心、希望を満たせる取り組みとなるよう努めてまいります。

関係各位におかれましては、前期計画同様、この第7次計画の実践に向けて特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、この計画の策定にあたりご尽力を賜りました社会教育委員並びに関係各位に対しまして心より厚くお礼申し上げます。

津別町教育委員会

教育長 宮 管 玲

第7次津別町社会教育中期計画目次

はじめに

第1章 社会教育中期計画策定の趣旨

第1節 計画策定の目的	1
第2節 計画策定の基本的な考え方	1
第3節 計画の期間	1

第2章 社会教育中期計画の基本

第1節 第6次津別町総合計画	2
第2節 社会教育推進の構造	3

第3章 社会教育の現状と課題・推進目標と具体的施策

第1節 生涯学習の推進	4
第2節 生涯スポーツの推進	6
第3節 芸術文化の推進	8
第4節 学習環境の整備	9
第5節 読書活動の推進	11

資料編

第7次津別町社会教育中期計画の策定について（諮問）	1
第7次津別町社会教育中期計画の策定について（答申）	2
第7次津別町社会教育中期計画策定委員名簿	3
津別町の概況	4
社会教育関係団体	6
社会教育関係予算	7
社会教育関係団体補助金一覧	7
社会教育関係委員	8
埋蔵文化財	9
社会教育職員の変遷	10
教育委員会機構の変遷	14
町内社会教育施設	17
津別町社会教育の沿革	21

第1章 社会教育中期計画策定の趣旨

第1節 計画策定の目的

津別町では、社会教育の振興・充実を図るため、第5次津別町総合計画（平成22年度～平成31年度）を踏まえ、第6次社会教育中期計画（平成27年度～平成31年度）を策定し、「学び合い つながり合い 活気あるまちづくりをめざす社会教育の推進」を基本目標に、学習機会や情報提供を行い、学ぶための環境整備・充実を図ってきました。

この間、時代の変化は著しく、私たちを取り巻く環境は日々変化し続けています。特に少子化と高齢化は進む一方で、若者の流出などにより人口減少に歯止めが利かない状況です。

集団から個人へのサービスの向上が強化される中、生涯学習の分野では多種多様な個人へのニーズを捉えながらも集う場・学び合う場の整備が求められ、希薄になったコミュニティの強化、時代の変化や災害に対し一人ひとりが対応できる知識や技能を身につける体験と学習機会の提供、まちづくり・地域づくりに資する人材の育成など、課題は多岐にわたっています。

一つ一つの課題解決に向け、世代を越えた「つながり」や豊かな人間性を高める「体験と学習」、それらの活動を活発に行える拠点施設の整備など、持続可能な地域社会の構築を目指した社会教育活動の推進が求められています。

これらの状況を踏まえ、社会教育行政の目的・目標達成のための方策・事業等を体系的に整理し、効果的かつ効率的な運営を図るための指針として、第7次津別町社会教育中期計画を策定します。

第2節 計画策定の基本的な考え方

本計画は、今後の本町の社会教育を推進するための基本的指針となるものであり、「第6次津別町総合計画」との整合性を図りながら、社会教育推進方針を設定し「津別町民憲章」「津別町教育目標」の具現化を図るものです。

第6次社会教育中期計画（平成27年度～31年度）及び単年度における反省・評価の検証を行い、見直しと検討の中から社会教育推進上の課題を明らかにし、今後5年間における社会教育推進の計画を策定します。

町民の自主的で主体的な学習活動が行われ、地域の活性化や地域づくりへの参画につなげることができるよう、地域の教育力の向上を目指し、具体的な施策の推進を図ります。

第3節 計画の期間

第7次津別町社会教育中期計画の計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

第2章 社会教育中期計画の基本

第1節 第6次津別町総合計画

将来像

「暮らしたい、魅力あふれるエコタウン」

重視する取り組み

高める津別力

- 1 住み続けられる安心快適な生活環境を形成する
- 2 若者・子育て世代を惹きつける（住む場所・働く場所・教育・子育て）
- 3 まちの未来づくりは人をつくる（教育と人材育成に力を入れる）
- 4 地域デザイン・地域ブランディングで価値を高める（地域資源・産業・暮らし）
- 5 つべつの強みを発信する力を高める（シティプロモーション）
- 6 「2nd フロンティア・津別」で新しい移住者を呼び込む

基本政策分野

つべつ・人・未来づくり（教育・子育て）

人と地域の中で豊かに学び合い、未来の人材を育むまち

<子育て支援の充実>

どこよりも子育てしやすく、子どもがすくすく育つ、子育て世代に選ばれるまちづくり

<学校教育の推進>

夢や希望を持って、未来を切り拓く子どもを育む、「津別ならではの」の学校教育の推進

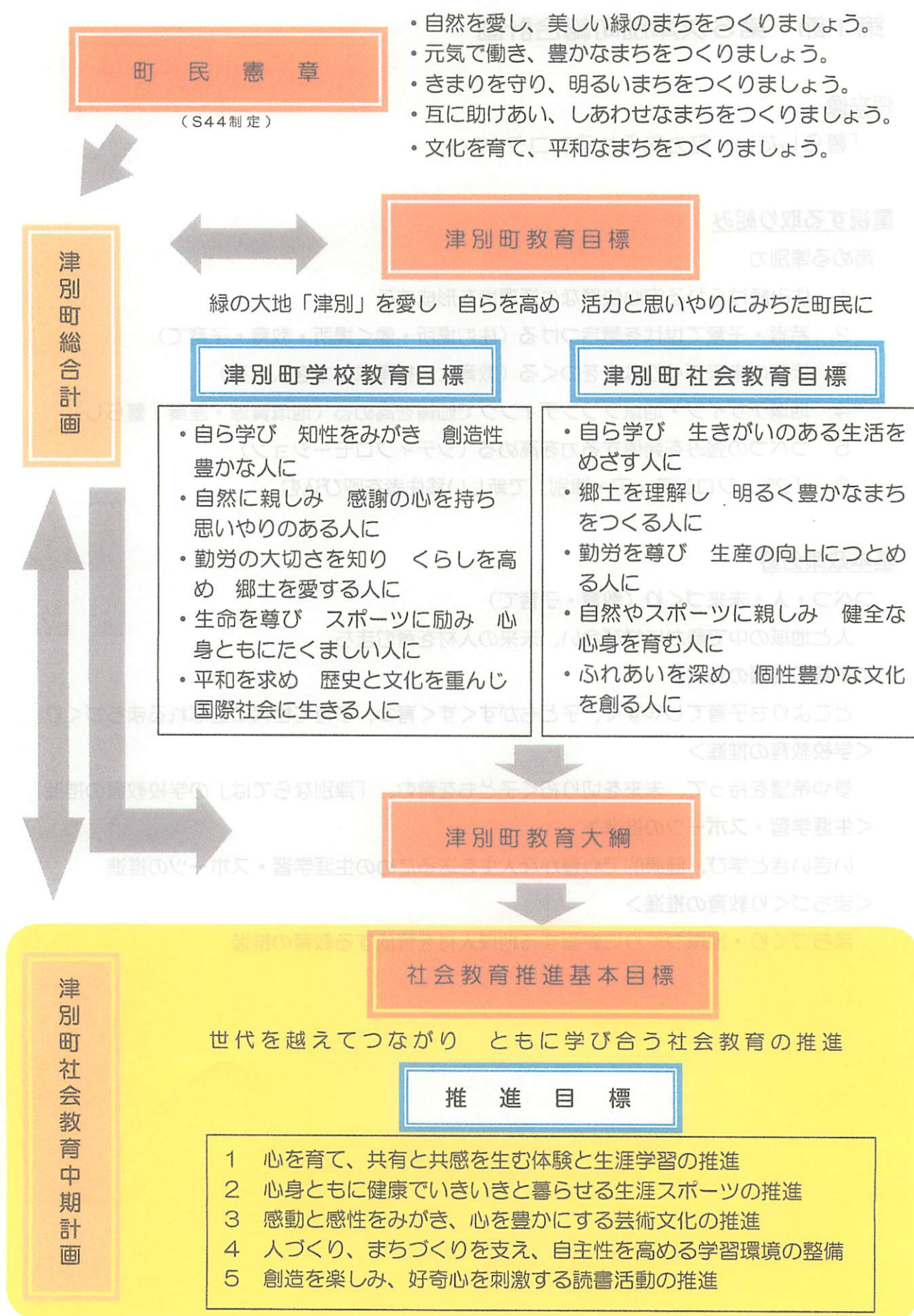
<生涯学習・スポーツの推進>

いきいきと学び、健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進

<まちづくり教育の推進>

まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進

第2節 社会教育推進の構造



第3章 社会教育の現状と課題・推進目標と具体的施策

第1節 生涯学習の推進

推進目標1

心を育て、共有と共感を生む体験と生涯学習の推進

1) 現状と課題

家庭教育は、全ての教育の出発点であり、乳幼児期の親子の絆の形成に始まる家族とのふれあいを通じ、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成するものです。平成27年度に開園した認定こども園、子育て支援センターオープンに伴い、社会教育が関わる子育て支援事業は、主に家庭教育学級として開設している就園前の親子サークル「ちびっこクラブ」へ、学級開設の内容の相談等を行っている。活動は児童館から子育て支援センターへ活動場所も移動したことから、以前より関わりが薄くなってきている。そのことから、生涯学習課として家庭教育分野では、産後の体力づくりと心のケアに効果のある産後ケア事業を継続的に実施し、パートナーシップを高める「夫婦講座」も実施している。参加者からは、身体を動かすことは心身ともにリフレッシュできる良い機会となっており、「子育てしている自分が笑顔でいることだと気づかされた」などたくさん感想もあり、引き続き運動と学習の充実を図っていききたい。

少年期事業「アソビバ!つべつ」における体験活動は、子どもたちの直接的な体験活動や学びを豊かにしていくことの必要性を重視し、津別町にある豊かなフィールドを活用した多様なプログラムの提供が行われている。また、町内団体との連携や「まなびい〜ぶる」の人材を活用し、地域の人と交流を図りながら、人・資源による郷土学習事業を継続して実施しており、子どもたちの豊かな心と身体を育むためのプログラムを展開している。近年、「アソビバ!つべつ」事業の参加者が固定化してきており、活動できるフィールドなどの情報収集や学校・保護者等への情報共有など積極的に取り組み、参加しやすい体制を目指していくこととしたい。

津別町内在住又は勤務している青年の集団「青年活動プロジェクト and」は、横のつながりを築きながら定例会議を開催し、異業種交流会など様々な活動を行っている。設立当初より会員も増えているが、実際に活動している会員は固定化しており、一部の会員の負担が大きく、事業展開が難しいのが現状である。今後は、会員が集まりやすい環境づくりのための工夫が必要である。

高齢者の生活課題に対応した学習機会として「津別町寿大学」を開設し、聴くだけでなく参加型の講座など、誰もが参加しやすい内容を検討してきました。新入生がいない時期もありましたが、ここ数年入学者が複数いることから、学ぶ意識の高さがうかがわれます。

このことから、他の分野とのコラボ事業により地域の教育力を高めながら世代を越えてのつながりを視野に入れた事業実施が必要です。

2) 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
子育て学習の場	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭教育学級の活動支援 • 家庭教育講座の充実
親子の絆を深める体験の場	<ul style="list-style-type: none"> • 親子の共有・共感体験事業の充実 (読み聞かせ、運動遊び、自然体験、ブックスタート、食育など)
郷土（津別の自然と文化）学習の場 異年齢交流とジュニアリーダー育成の場	<ul style="list-style-type: none"> • アソビバ！つべつ事業の充実 • 児童クラブ、放課後子ども教室の整備
国内青少年交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 船橋市、南アルプス市との青少年交流事業の推進
国際理解・学習の場	<ul style="list-style-type: none"> • ALT を活用した事業の充実 • 台湾二水郷交流事業
リーダー育成や地域貢献活動の場	<ul style="list-style-type: none"> • 高校生ボランティアサークルひまわりの活動支援
若者の居場所や異業種交流の場	<ul style="list-style-type: none"> • 青年活動プロジェクト and の活動支援
自己の生きがい生活文化を高める生涯学習の機会	<ul style="list-style-type: none"> • 社会教育講座の充実 • 寿大学事業の充実



家庭教育講座「産後ケア教室」



アソビバ！つべつ「収穫体験」



寿大学
「小学校3年生との交流」



高校生ボランティアサークルひまわり
「通学合宿レクリエーション」

第2節 生涯スポーツの推進

推進目標2

心身ともに健康で、いきいきと暮らせる生涯スポーツの推進

1) 現状と課題

一人ひとりのライフスタイルや年齢、性別、体力、興味などに応じて、いつでも、どこでも、誰とでも気軽に運動を楽しむことができる生涯を通じたスポーツ活動の充実や機会の提供に努めてきました。本町においては、スポーツを楽しみながら健康や体力づくりへの関心と意欲のある町民は、平成26年に設立された「総合型クラブかるっちゃつべつ」へ加入し、ウォーキング、水中運動、軽スポーツなど自分に合った種目に参加し、それぞれの体力に合わせた健康増進を図っている。また、身体を動かす機会のない町民への働きかけは、保健福祉課と連携して参加奨励しているが、各種事業の参加者が固定化しているなどの課題もある。平成30年3月にトレーニングルームが改修されたことを機に、ソフト事業の強化を図り、町民の健康増進に寄与することを目的とし、外部に指導業務を委託して事業展開してきたが、設備を整えたトレーニングルームができて、トレーニングの経験のない人や、トレーニングルームが改修されたことも知らない町民も少なくないことから、周知方法の工夫が引き続き必要である。

ジュニアスポーツの推進については、町内の小中学生を対象にスキー技術の向上及び楽しさを理解してもらうため、元オリンピックの川端絵美氏を招き3日間の日程で実施してきたが、2日間日程としてスキー以外の種目でのスポーツ推進事業として、平成30年度にスケートの郷里沙氏に、令和元年度は水泳の種田恵氏のオリンピックに指導を受け、子どもたちはその種目の上達はもちろんのことオリンピックからの指導は、心にも響くものがあったと感じられる事業となっている。また、スポーツ合宿誘致事業も開始から20年経過し、チーム数が減少したが毎年来町する合宿チームと町民との交流事業も恒例となり、町内に少年団がある種目の野球、サッカー、バスケットボールは、合宿チームから指導を受けられる機会もあり、スポーツ活動に対しての意欲向上に繋がっている。

2) 推進項目と具体的施策

並装のビーホス駐主 確と潔

推進項目	具体的施策
様々なスポーツに触れる場	<ul style="list-style-type: none"> • 体力向上プログラムの充実 (水泳、スキー、スケート、体力測定、コーディネーショントレーニングなど) • スポーツ交流の充実 (スポーツ合宿、アスリート体験など)
健康で生き生きと過ごすための運動の機会	<ul style="list-style-type: none"> • 各種運動教室の充実 • トレーニングルームの利用促進 • 保健福祉課との連携
地域のスポーツ振興と活性化	<ul style="list-style-type: none"> • つべつ紅葉マラソン大会の開催 • 冬季スポーツイベントの開催(スケート・スキー) • スポーツ合宿誘致



トレーニングルーム
「専門スタッフによる指導」



スケートイベント
「五輪選手 郷亜里砂氏によるスケート教室」



つべつ紅葉マラソン大会



子どもの体力向上プログラム
「コーディネーショントレーニング」

第3節 芸術文化の推進

推進目標3

感動と感性をみがき、心を豊かにする芸術文化の推進

1) 現状と課題

鑑賞事業としては、「子ども芸術劇場」「青少年芸術劇場」「青少年移動芸術劇場」「日本フィルセミナー・コンサート」に加え、平成30年度から新たに0歳から楽しめる「子どもオペラ」を開催し、対象ごとに鑑賞機会を提供しています。団体活動としては、文化協会を中心に文化祭の開催など、創作・発表機会の充実に努めていますが、多くの団体では会員の高齢化や活動のマンネリ化という課題を抱えているのが現状です。自主的な文化活動がより一層活発に展開されるよう側面からの支援が必要です。

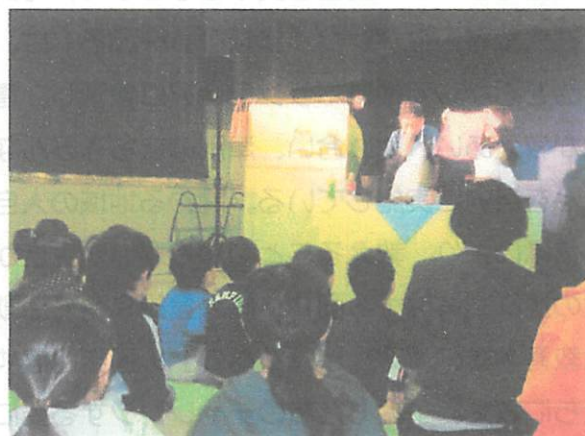
町民に芸術文化の鑑賞機会を提供する団体として昭和58年に発足した『町民芸術劇場』は、「日本フィルセミナー」事業を中心に、「リコーダーセミナー」等の鑑賞機会を提供してきています。この中でも「日本フィルセミナー」は、日本フィルハーモニー交響楽団の奏者を講師に迎え、道内外のアマチュア奏者を対象に音楽の基礎を学ぶ場として開催されており、全国に類のない催しとして注目されており、今後も継続していくために推進役の『町民芸術劇場』のスタッフの充実が求められています。

2) 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
芸術文化に触れる場	<ul style="list-style-type: none">・芸術鑑賞事業の充実（青少年移動芸術劇場など）・児童館、幼児・保護者、親子の芸術鑑賞機会の充実・芸術文化体験の機会



青少年芸術劇場（小学校）
「アフリカ音楽」



子ども芸術劇場（児童館）
「人形劇」

第4節 学習環境の整備

推進目標4

人づくり・まちづくりを支え、自主性を高める学習環境の整備

1) 現状と課題

社会教育施設の多くは建設から30年以上が経過し、経年劣化による老朽化が進み修繕や改修費用が町財政にとって大きな負担になることが予想されています。

今後は長寿命化計画策定済みの施設については、個別に定める長寿命化計画に従って、計画的な整備が望まれています。利用者・関係団体の意見を取り入れ、目的に応じた施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理の充実に努めます。

図書館については、独立館を持たない本町では、第2次社会教育中期計画から30年来、図書館建設の必要性が検討されてきましたが、厳しい財政状況下で図書館建設は断念し、現中央公民館図書室のままで機能を充実させていくこととしました。平成28年に社会教育委員の会議から、津別町中央公民館図書室の現状を踏まえ、図書室機能の持つ本来のあり方について、具体的な検討課題が提言されました。提言を受けて古い蔵書を抜本的に整理しフリースペースを設け、気軽に利用できる施設に改善し、各種読書推進事業を実施してきましたが、津別町複合庁舎建設等まちなか再生計画（平成30年7月）の位置づけで、平成31年4月に社会教育委員を中心に図書館建設検討委員会が設置され、図書館建設に向けての検討が始まりました。

また、社会教育委員については、現在年3回の会議を開催し、社会教育推進計画の検討や事業評価を行っています。限られた会議の中での議論では、計画に反映しにくいことから、今後においては、社会教育委員に年1回程度各種事業に関わりを持ってもらい、社会教育事業推進計画に生の意見を取り入れることとしたい。スポーツ推進委員は、月に1回自主的な会議を開催し、事業の割り当てを決めたり、事業終了後に事業の反省なども行っています。会議後には実技研修も実施し、さらには平成30年にリニューアルしたトレーニングルームの指導のために、年に数回専門指導者からの講習を受けるなどして、町民の健康増進のために大きく貢献しています。

社会教育人材バンク「まなびい〜ぶる」は、津別町内の生涯学習で学ぶ人たちが、その知識や経験を活かして地域ボランティアに参画し、青少年の健全育成や町民相互の交流を図り、それぞれが教えあい、助け合い、津別のまちをみんなで支える「まちづくり」「人づくり」に寄与することを目的に実施している。関わる地域の人自身が、知識や経験を教える伝承・地域資源を伝える伝承により、教えることのやりがいや生きがいを感じてもらえる機会になっている。平成30年度の登録団体は13団体、個人登録9名で活動事業数は10事業だった。事業内容としては、社会教育事業の「アソビバつべつ」の通学合宿や森のおはなし会などで、各種団体の活動を子どもたちに教え、子どもたちのチャレンジする姿に教える側も自身の活動意欲が増しているとの声もあがっており、今後においても登録者を増やす工夫と活動機会の提供に努めたい。

2) 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
活動の拠点となる施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化等に伴う施設の計画的な改修 ・利用者が活動のしやすい施設環境の整備 ・施設の利用促進と有効活用（学校開放事業含む）
各種委員活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員 ・スポーツ推進委員 ・少年補導委員
情報発信と収集	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習機関紙の発行と情報発信の創意工夫 ・住民の学習活動を支援するための情報の収集
団体育成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育認定団体、スポーツ少年団、総合型クラブの活動支援 ・文化賞、スポーツ賞授賞式
経験や技能を生かし、やりがいを創出する場	<ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクまなび〜ぶるの活用促進
文化と郷土の保存	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料の保存 ・文化財の保護 ・郷土芸能の育成



津別町中央公民館



多目的運動公園 ラグビー場



人材バンクまなび〜ぶる（津別フォークダンス研究会）
「通学合宿 フォークダンス体験」



生涯学習機関紙「みどりの清流」

第5節 読書活動の推進（第1次津別町子どもの読書活動推進計画）

推進目標5

創造を楽しみ、好奇心を刺激する読書活動の推進

1 津別町子どもの読書活動推進計画の基本的な考え方

【計画の目的】

小さいころから本に親しむことは、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人としてより人生を豊かにしてくれる大切なことです。

この計画は、津別町における子どもの読書活動推進にあたっての基本的な方向と具体的な方策を明らかにし、読書活動推進施策に総合的かつ計画的に取り組むことにより、子どもの健やかな成長に資することを目的とします。

【計画の基本】

- 1 「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月施行）に基づき、子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と取り組みの体系を示すものです。
- 2 津別町における子どもの読書活動の推進状況などを踏まえ、北海道教育委員会が策定した「北海道子どもの読書活動推進計画 第四次計画」を基本とし、策定します。
- 3 津別町総合計画及び津別町社会教育中期計画との整合性を図ります。
- 4 取り組み実施にあたっては、各年度の予算や単年度事業計画などをもって明らかにします。

【計画の対象者と期間】

- 1 計画の対象者は、0歳から概ね18歳以下の者とします。
- 2 この計画は、第6次津別町総合計画及び第7次津別町社会教育中期計画期間と整合を図り、令和2年度から令和6年度までの5ヵ年とし、必要に応じて計画を見直します。

2 子どもの読書活動推進のための方策

1) 家庭における子どもの読書について

① 現状と課題

幼少期から本に親しむことは、本に興味を持ってもらう大切な時期であり、子どもの読書習慣を身につけていくうえで重要な期間と言えます。特に家庭での役割は大きく、読み聞かせなど本を通して、親子のコミュニケーションの構築を高め、親子の信頼関係や絆を深めます。

しかし、共働きの家族が増えたことで、家庭で一緒に読書をする時間が減少傾向であり、また、スマートフォンの普及により親の世代においても読書離れが進んでいることが懸念されます。親が読書をしないうえに、家庭の中に本がないといった環境が増えつつあります。

親も子どもも本に触れたい、読んでみたいとなるような、読書活動の日常化にはさらなる仕掛けづくりと工夫をしていくことが課題となっています。

② 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
本との出会いの場	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート、ブックセカンド事業のすすめ ・絵本と触れ合う機会の創出 (保健福祉課との連携)



ブックスタート用配布図書



アソビバ! つべつ (つべつおはなしポケット)
「森のおはなし会」



ボランティアサークルつべつおはなしポケット
「ケアハウス訪問 朗読」



中央公民館図書室
「特集コーナー」



津別町中央公民館図書室
「読書記録通帳機」

2) 地域における子どもの読書活動について

① 現状と課題

子どもたちの取り巻く環境には、テレビ、ゲーム、インターネット、スマートフォンなどのメディアが溢れ、本を手にする時間が減り、子どもたちの読書離れが広がっています。また、部活や習い事などにより子どもの余暇時間が減り、読書に当てる時間がないという現実も増えてきています。

しかし、心に残るステキな本との出会いや本のおもしろさを知ることによって読書に親しむきっかけや読書習慣の定着につなげることができると考えます。そのためには、様々な本との出会いの場の充実を図り、本にたくさん触れる仕掛けづくりが必要です。今後は地域だけに留まらず、学校とも連携を図りながらその機会を創出し、読書活動の推進を進めていくが課題です。

また、読書活動を活発にするためには環境の整備も重要になります。子どもたちが手に取りやすい開架、わくわくするようなレイアウト、レファレンスサービスの充実、図書や読書に関する積極的な情報発信など、地域も学校も環境の質をあげるより一層の工夫と努力が課題となっています。

② 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
本に触れ、価値観と創造に触れる場	<ul style="list-style-type: none">・ 移動図書の配本内容の充実・ 読書活動推進事業の充実・ 読書チャレンジコンクール、読書ノート事業の推進・ 図書室まつりの開催・ ボランティアサークル団体の育成
学校との連携	<ul style="list-style-type: none">・ 図書司書の派遣による学校図書室の整理、選書、蔵書管理に関する助言や協力・ 調べ学習に必要な図書の貸出し支援・ 新入学生への図書室の利用促進
知る機会と啓発活動	<ul style="list-style-type: none">・ 家読、よむ日のススメ (4と6のつく日は読書の日)・ 図書だよりの発行、生涯学習機関紙に活動の掲載・ 定期的な図書の展示・紹介の充実・ ホームページへの掲載と更新
読書環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 気軽に利用できる空間の確保・ 図書資料と貸出しサービスの充実・ 除籍による蔵書更新の推進

3) こども園・学校における子どもの読書について

① 現状と課題

情報化社会の進展は、自分でものごとを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢をもたらしやすい醸成を生み出しています。読書活動は、生活に必要な国語を正しく理解し、自分の考えを形成・表現するなど、新しい時代に必要となる資質と能力を育むものです。

学校教育の中においても識字率の低下、学力低下、国語力低下が懸念され、子どもたちが多くの語彙や多様な表現に触れ、新たな考え方に出会う読書の機会を充実させることが求められています。

感じる力・想像する力・表す力などの感性を磨き、言語能力を向上させるだけにとどまらず、読書により集中力や好奇心・探究心も培い、学力向上の底上げにもつながる重要な活動として読書活動を学校生活や授業の中でも積極的に取り入れていく必要があります。

また、学校図書室は子どもの居場所、学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場であり、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する上で、大事な場所です。子どもたちの読書活動を盛んにするためには、図書の実態だけでなく、気軽に相談でき、子どもの視点でおもしろさや教養的な雰囲気を感じさせる司書の存在も重要になります。

授業内容を豊かにし、子どもたちの学びを深めるため、学校図書室の機能を十分に発揮できるよう図書資料の充実と活用しやすい環境整備は急務といえます。地域との連携を強化し、学校・地域全体で子どもの読書環境を整えることが課題です。

② 推進項目と具体的施策

推進項目	具体的施策
こども園に対する支援	<ul style="list-style-type: none">・ 情報交換・ 移動図書の配本内容の充実・ 図書司書による訪問読み聞かせ等の支援・ 園児への図書室の利用促進
学校に対する支援	<ul style="list-style-type: none">・ 学校図書担当教員との情報交換・ 図書司書による学校図書室の整備、選書、蔵書管理に関する助言や協力・ 地域図書室と学校図書室のシステム連携による活用促進と相談等の支援



図書室まつり
「読み聞かせ」



アソビバ! つべつ・児童館合同事業
「読書ウィーク 読み聞かせ」